

## 事業所における自己評価結果（公表）

公表：平成31年 1月11日

事業所名 わかば園

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2	職員の配置数は適切である	○			
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また障害の特性に応じ、事業所の設備等はバリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○		個別のマーク等視覚的にわかりやすく示しています。玄関・廊下の掲示板にお知らせや子育て広場等の情報を提示しています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		点検簿に基づき清掃・消毒を行います。子どもの動線を考慮した配置にしています。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している。	○		定期的に職員会を実施し業務の改善点等、話し合いを行っています。	
	6	保護者向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		意見箱を設置したり保護者が話をしやすい雰囲気づくりに配慮しています。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を事業所のホームページ等で公開している	○			
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		
	9	職員の質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		全員参加や交替で積極的に研修参加するよう努めています	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			
	11	子どもの適応行動の状況を図るために標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		個別支援計画作成会議で児童発達支援管理責任者と保育者が項目を確認しながら作成しています。	「地域支援」については具体的な検討をしたいと思います。

	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		日頃のミーティング等で決めています。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		季節に応じ・また個々の発達に合わせて変化します	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	○			
	17	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎回ミーティングをし子どもの様子、活動について確認しあいます。	
	18	支援終了後には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		不参加の場合、記録の回覧また、次の打ち合わせ時に伝達し共有しています。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		支援者全員で実施し、共有しています。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達管理責任者が出席しています。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		ネットワーク会議に参加しています。	
	23	(医療的ケアが非地酔うな子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			併行通園先との連絡会を実施し情報の共有をしています。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			就学前に移行支援シートを作成したり学校の連絡会に出席しています。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や障害のない子どもと活動する機会がある	○			同法人の保育園の子ども達と交流しています。

	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○			
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		療育前後、保護者にその日の様子・課題を毎回伝えあうようにしています。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		保護者勉強会を実施しています。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		お便りや掲示板で行事や、療育内容を発信しています。	
	38	個人情報の取り扱いに十分注意している	○			
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		地域の方々とできる活動を今後工夫していきます。
	非常時の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		
42		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		療育時間内に親子参加で訓練を行っています。	グループで訓練回数が異なる事もある為改善していきます。
43		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	○			

44	食物アレルギーのある子どもについて 医師の指示書に基づく対応がされている	○			
45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所 内で共有している	○		職員全員で話し合い改善策につ いて共通理解を図っています。	
46	虐待を防止するため、職員の研修機会を 確保する等、適切な対応をしている	○		研修会に参加し職員全体で 情報共有しています。	
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を 行うかについて、組織的に決定し、子ど もや保護者に事前に十分に説明し了解を 得た上で、児童発達支援計画に記載して いる				

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。